

あつめよう

“ 農地集積でより良い営農を築こう ”



登米市東和町 農家レストラン「三たてそば**すぎやま**」風景



農地集積に関する各地の主な行事等

- 北部地方農地集積指導チーム : 3月 5日～3月13日 農業農村活性化推進会議実施
- 栗原地域農地集積指導チーム : 2月23日～2月28日 農地集積戦略会議実施
- 登米地域農地集積指導チーム : 2月22日～2月23日 農村活性化推進会議。
- 東部地方農地集積指導チーム : 3月 8日～3月12日 集積担当者会議
- 農村整備課 : 3月上旬平成23年度集積速報値取りまとめ。

農地集積アドバイザー派遣状況

月日	時間	会議名	場所	アドバイザー	地区名	主催
3/1	13:30	平成23年度農地集積研修会	大崎合同庁舎	尾張 勝	北部管内	宮城県北部地方振興事務所
3/15	19:00	平成23年度新井田南部地区農地集積研修会	下道ふれあいセンター (登米市中田町宝江新井田)	近田 利樹	新井田南部	社団法人宮城県農業公社

特集：おらほの担い手

1. 地区のようす

米谷地区は登米市東和町の南部に位置し、地区の北は市街地、西に北上川、東、南は山林に囲まれているが、東和町の中では比較的農地のまとまった地域である。

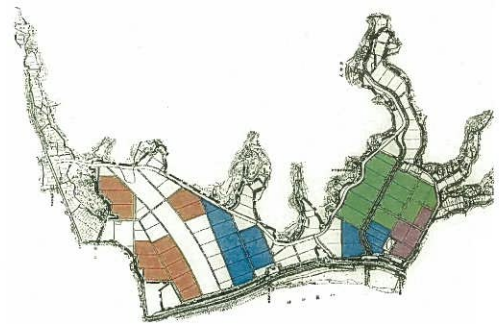
基幹産業は農業で、水稻を核として畜産、野菜を組み合わせた複合経営である。一戸あたりの耕作面積は1.1haと県平均より少ないが、耕作面積が少ない本町の中では、経営規模も比較的大きく主要な農業地帯となっている。

しかし、第2種兼業農家が80%を占めるなど兼業化が著しく、若年層の担い手が減少している。

ほ場整備事業の実施により担い手農家への農地の集積、経営規模の拡大を目指している。



事業名：戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業
 関係市町村：登米市東和町
 関係土地改良区：登米市東和町土地改良区
 工期：平成10年度～平成23年度
 受益面積：A=66.4ha
 農家戸数：176戸
 総事業費：15億3,900万円
 目標農地集積率：60.5%



2. 米谷地区の担い手について

担い手名	経営面積	地区内	権利別内訳				地区外面積	地区内作物	認定農業者
			所有権	利用権	農地法3条	農作業受託			
A	123,973	90,933	6,377	8,151	0	76,405	33,040	水稻・牧草	○
B	132,526	90,206	22,849	16,281	0	51,076	42,320	水稻	○
C	89,977	51,205	3,000	0	0	48,205	38,772	水稻・牧草	○
D	95,714	63,858	16,731	0	0	47,127	31,856	牧草	○
計	442,190	296,202	48,957	24,432	0	222,813	145,988		

米谷地区が採択された当時は、農用地面積90.2haで個別担い手11戸、生産組織1組織で62.4ha(集積率69.2%)を集積する計画であった。

7年後の平成17年度に三陸縦貫道の建設に伴い地区除外から受益地が66.4haに減ったことと担い手農家が高齢化により他産業へ転換したことにより個別担い手が5戸に減った。

翌年、生産性の高い農業経営を目指し、「米谷水稻生産組合」のオペレーター型に移行したが、米価の下落等により構成員が経営を転換したため、組織名を「米谷生産組合」と改め再出発した。

その後、構成員1名が死亡し、効率的な営農体制が不可能となり、組織を解散、現在個別担い手4戸が地区の担い手になっている。

4戸の経営は異なり、水稻専業1戸、水稻・畜産2戸、水稻・そば屋経営1戸である。

その中の1人である及川さんは当初、水稻(経営面積2.5ha)と畜産を行っていたが、地域の活性化のため「みやぎ手づくりプラン」の取組に「ろくしち活性化委員会」の委員として当初から立ち上げに加わり、3年前から会長として活動する一方、地区の担い手として規模拡大を図りながら趣味で始めた「そば打ち」を経営に加えたことで、畜産を止め

今回紹介する担い手は、米谷地区の担い手であり、地元で農家レストランを行っている及川清さんを紹介します。



3. 農家レストラン「三たてそばすぎやま」

お店のご案内

- 住所 宮城県登米市東和町米谷字相川9
- 電話 0220-42-3677
- 営業時間 11:00～14:00
- 定休日 毎週 月曜・火曜

- 米を保存していた板倉を改造した農家レストランです。中は木をふんだんに使用していて、しかも釘は一本も使っていない造りで地震にも強いとのこと。とても心安らく良い雰囲気の店構えです。
- 地元の自然豊かな水で作ったそばは、歯ごたえが楽しめ、挽きたて、打ちたて、茹でたてが店のこだわりです。旬の天ぷらや、そばだんごなどもあります。



Q:店の名前と由来を教えてください

A:「三たてそばすぎやま」です。
「すぎやま」は家の屋号なのでそのまま使っています。
ここの集落全てに屋号があり、皆さん屋号で呼び合っています。
「すぎやま」と言えば家のことです。
「挽(ひ)きたて、打ちたて、茹(ゆ)でたて」の美味しいそばを提供することにこだわっています。



Q:そば屋を始めたきっかけはなんですか？

A: これからの農産物は自分で売っていかなければならないなあ～と思っていました。
趣味で「そば打ち」をしていたので、「これにしよう！」と思い起業しました。

Q:店は何人でやっているのですか？また一日何食出ますか？

A: 現在は3名(及川夫妻とパート1名)ですが、夏は5名(及川夫妻とパート3名)で働いています。
一日平均25食くらい、多いときで80～100食出る時もあります。

Q:リピーターの確保戦略、PR方法

A: 季節の食材にこだわっているので、年3回は来てほしいと思っています。
春は山菜天ぷら、秋は新そば、冬は寒ざらしそばを味わってほしいと思います。
PRは別に何もしていません。お客さんがいろいろしてくれているし、口コミで広がっていると思います。
年1回自宅でジャズコンサートを開いていますが、これもお客さん自らやってくれています。
私は、場所と「そば」を提供するだけです…(笑)

Q:経営の喜びはなんですか？

A: お客さんから癒しやアイデアをもらったり、励まされたり…お客さんとの交流が嬉しいです。
わざわざ遠くから「そば」を食べに来てくれているので、こちらも美味しいそばを提供するよう努力しています。
以前、「粉が無くなったから出せない」と言ったら怒って帰ってしまったお客さんがいました。



雰囲気の良い店の玄関



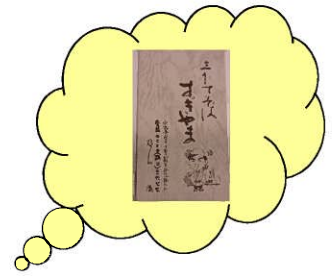
奈良県のお客さんが作ってくれた「のれん」



看板メニューの天ぷらと寒ざらし板そば、そしてデザート2品



店主と奥様



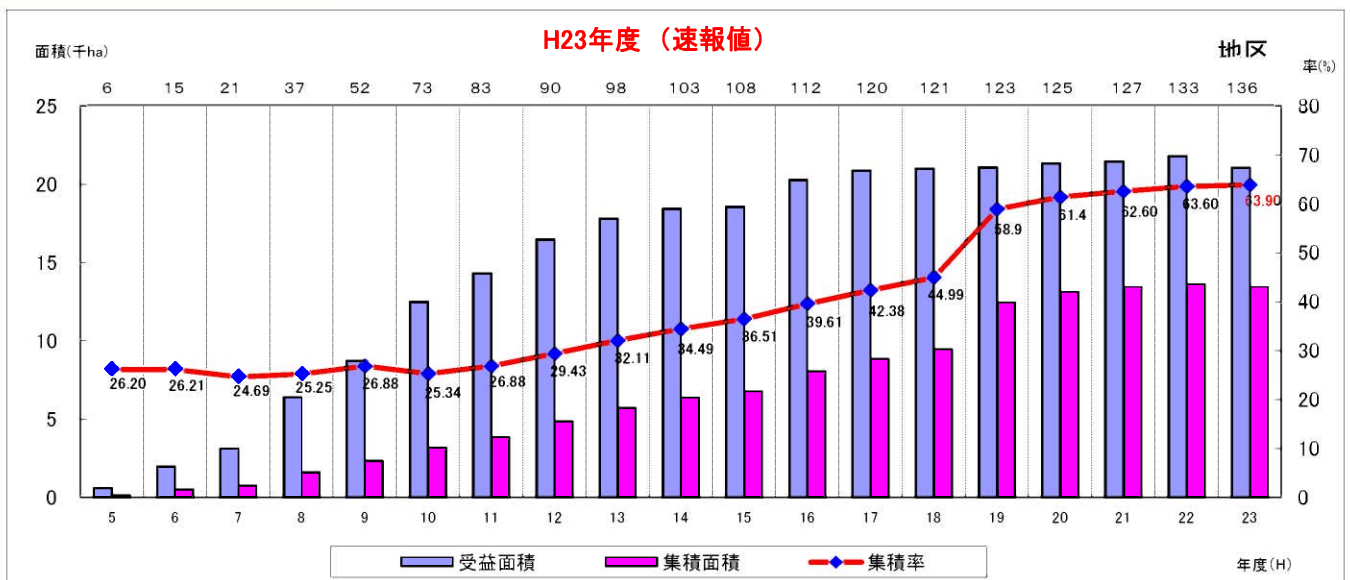
お客さんが作ってくれた名刺

及川さんが現在取り組んでいる地域との交流と将来について熱く語ってくれました！

- ・米谷地区担い手との交流は、年1回食事会を実施している。
- ・畦畔の草刈りを地域の方に頼むとみんな出てきてくれる。
また、年1回飲み会をして地域と交流している。
- ・規模拡大をしていきたいが、そば屋の経営もあるので難しい・・・
逆に、自分はそばに専念して、地域みんなに農作業を手伝ってもらい賃金を支払うことにより地域へ還元出来るのではないかと考えている。
- ・今後は担い手みんな経営スタイルが違うが、3人で受委託を進めて法人化も視野に考えて行きたい。
- ・登米市内の学校(4~5校へ)や公民館から依頼があり、そば打ち体験を行っている。
- ・近くに三滝堂ふれあい公園があり、川遊びができるので子供たちに人気の場所となっている。
- ・夏は家族連れでキャンプや遊びに来るので、都市との交流拠点として体験農場をする場所を確保した。
そこでソフトクリームやピザを提供する計画がある。
- ・集落のシンボルとして水車を作った。
また近くにコーヒー店が出来て賑わいが出てきた。



速報値出る！



【問い合わせ先】

水土里ネットみやぎ（宮城県土地改良事業団体連合会）
 農地集積センター
 〒980-0011
 仙台市青葉区上杉二丁目2番8号 TEL:022-263-5815 FAX:022-268-6390

